

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA全農ふくれん営農総合課)
(公 印 省 略)

営農情報 5

水稲の品質向上対策について

近年、不稔籾や斑点米の原因となるイネカメムシ（写真）の発生が県内で拡大しています。本年も昨年同様、早期水稲を中心にイネカメムシの発生数が多く確認されているとともに、その他斑点米カメムシ類も多く、被害が心配されます。

イネカメムシは、出穂直後から籾を加害し不稔籾を生じるため、ほ場内で発生を認めたら出穂期（4～5割の穂が出た時期）に防除を実施します。防除後、さらに発生が認められる場合は、斑点米の発生を防止するため追加の防除を実施します。

なお、防除にあたってはみつばちへの影響を十分に考慮して行ってください。

また、今夏は非常に高い気温で経過しており、高温登熟により米の品質低下が懸念されます。白未熟粒発生を防止し、籾の充実を高めるため、出穂後 20 日間は水を切らさないように管理するとともに、早期落水を避けるよう努めましょう。

【イネカメムシ防除における留意点】

- ・発生には地域的な偏りが見られます。発生が多く認められる地域では、防除を徹底しましょう。
- ・周囲と比べ出穂が早いほ場では、被害が多くなる可能性があるため、ほ場での発生状況に注意しましょう。
- ・移動性が高く、畦畔の草刈りを行ったほ場でも多発する場合があります。
- ・薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数、使用方法等）を確認し、適切な薬剤散布を心がけましょう。



左：成虫（体長 13mm 前後）
右：幼虫

イネカメムシの写真

※令和 6 年度病虫害発生予察技術情報 8 号

より引用